

校番	20	学校名	加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全日制	分校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

## 1 ミッション（地域社会における自校の使命）

校訓「誠実・自主・気魄」の精神に則り

- (1) 芸北学園構想の最高学府として、長幼の序を重んじ率先垂範できる生徒を育成する。
- (2) 地域を愛し、地域から愛され、地域社会を支える人材を育成する。

## 2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

鍛え、磨き、輝く芸北分校 ～山の中の小さな学校から大きな夢の発信～

### 1 目指す生徒像

「ルールを守り」「マナーを守り」「日本の心を守る」そして「地域を愛し、地域を支えることのできる人材育成」

### 2 目指す学校像

「地域と協働・共栄」「分校ならではの魅力づくりと発信」「芸北と全国の生徒との共感的人間関係づくり」

### 3 魅力づくり（人格形成）

「物怖じしない、発信力のある生徒の育成」

異年齢交流、地域魅力化（ボランティア等）、国際交流

### 4 魅力づくり（学力向上）

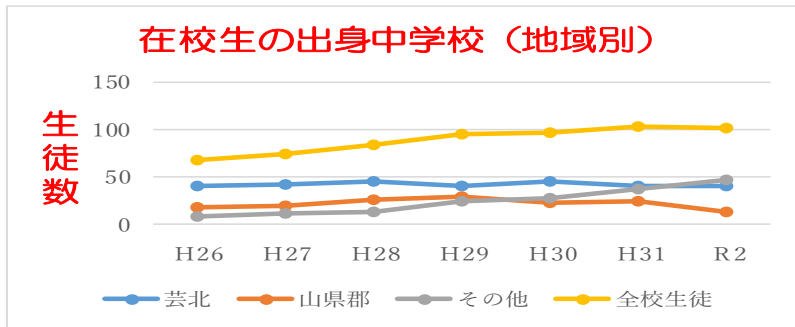
「向上心を持ち主体的に学び続ける生徒の育成」

学び直し、アクティブラーニング、地域の特色を生かした体験学習・提案型活動、応募活動

※キーワード「丁寧」…丁寧な教科指導、丁寧な生徒指導、丁寧な進路指導

## 3 環境分析

項目	現 状																												
(1) 生徒アンケートの結果	<p>学校の核となる 2 学年が中心となり、肯定的な回答をしている。特に、学校行事において生徒の主体的な活動を積極的に取り入れることが、自己肯定感の充実につながっている。しかし、学力の向上に関しては他の項目よりポイントが低く、すべての学年において学習意欲の向上が喫緊の課題である。</p> <table border="1"> <caption>生徒アンケートの結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①あなたは熱心に授業に取り組みましたか</td> <td>4.4</td> <td>4.4</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>②あなたはこの1学期間で自分の学力が向上したと思いますか</td> <td>3.9</td> <td>3.9</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>③あなたは熱心に部活動に取り組みましたか</td> <td>3.4</td> <td>3.4</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>④あなたは部活動が人格形成に役だっていると思いますか</td> <td>2.9</td> <td>2.9</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>⑤あなたは熱心に学校行事に取り組みましたか</td> <td>2.4</td> <td>2.4</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>⑥あなたは学校行事が人格形成に役だっていると思いますか</td> <td>2.4</td> <td>2.4</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	1年	2年	3年	①あなたは熱心に授業に取り組みましたか	4.4	4.4	4.4	②あなたはこの1学期間で自分の学力が向上したと思いますか	3.9	3.9	3.9	③あなたは熱心に部活動に取り組みましたか	3.4	3.4	3.4	④あなたは部活動が人格形成に役だっていると思いますか	2.9	2.9	2.9	⑤あなたは熱心に学校行事に取り組みましたか	2.4	2.4	2.4	⑥あなたは学校行事が人格形成に役だっていると思いますか	2.4	2.4	2.4
項目	1年	2年	3年																										
①あなたは熱心に授業に取り組みましたか	4.4	4.4	4.4																										
②あなたはこの1学期間で自分の学力が向上したと思いますか	3.9	3.9	3.9																										
③あなたは熱心に部活動に取り組みましたか	3.4	3.4	3.4																										
④あなたは部活動が人格形成に役だっていると思いますか	2.9	2.9	2.9																										
⑤あなたは熱心に学校行事に取り組みましたか	2.4	2.4	2.4																										
⑥あなたは学校行事が人格形成に役だっていると思いますか	2.4	2.4	2.4																										
(2) 生徒の確保	<p>芸北中学校からの芸北分校への志願者の割合は、本年度は 12/15 人 (80.04%) であった。さらに今年度は、県内全域からの生徒と合わせて 35 名の入学となった。</p> <p>山県地域（芸中除く）の入学数は前年度 10 名から 8 名へと減少した。千代田高校、加計高校本校とも地元中学生確保に力を入れており、更なる特色ある学校づくりを推進するとともに幅広い広報活動を通して、県内全地域及び全国の中学校から高い志を持った生徒の入学を増やしていくことが課題である。</p> <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生の出身中学校への訪問及び学校説明会（生徒によるプレゼンテーション）</li> <li>・広島県内の中学校訪問</li> <li>・学校 HP の更新を 50 回以上（ツイッターによるリアルタイム発信 100 回）</li> <li>・「芸北教育」の発信（広島県内すべての中学校）</li> </ul>																												



	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
芸北	41	43	46	41	46	41	41
山県郡	18	20	26	30	24	25	14
その他	9	12	13	25	28	38	47
全校生徒	68	75	85	96	98	104	102

(3) 進路実績

- ・ 国公立大学合格者は、1名であり数値的には下回ったが一定の成果を上げることができた。
- ・ 「基礎・基本の確実な定着」と「主体的な学び」充実に向けて、連携型中高一貫教育校の芸北中学校との連携を強化するとともに、中学校の生徒減に対応した新たな仕組みづくりに努める必要がある。
- ・ 大学入試改革、また、県内外の大学の受験状況など、進路情報について具体的に分析し、スピード感を持って系統的に取り組むを進めていく必要がある。全教職員が一人あたり3名～5名の生徒を担当し、きめ細かな指導を行う。

年度		平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31
卒業生数		16	22	30	22	32	33
進学	国公立大学	3	2	7	7	3	1
	私立大学	2	8	3	2	10	7
	短期大学	2	0	0	0	2	2
	専門学校	6	6	13	6	9	15
就職	公務員	1	3	1	3	1	3
	企業	2	1	5	4	5	4
	その他	0	2	1	0	2	1

(4) 生徒指導

- ・ 令和元年度の中途転退学者は4名（1名は原級留置）であった。転退学する理由は、「学校の雰囲気合わない」「人間関がうまく保てない」である。計画的・組織的な指導体制で臨むことはもちろんであり、より丁寧な指導が必要である。
- ・ これまでの生活環境、学力、人間性など様々な生徒が在籍している。それに対応していくための、出身中学校や外部機関との連携、特別支援コーディネーターを中心とした校内研修体制を構築、また、生徒のストレスマネジメントを積極的に行い、「ストレスを心に抱えれたままにしない」態勢を充実させる。
- ・ 部活動への全員加入を維持し、部活動を活かした生徒指導を行うことで地域の期待に応え続けることが必要である。

(5) 『芸北学園構想』に基づいた連携について

- ・ 地元小・中学校の生徒数が急速に減少しているなか、連携教育を充実させるために、学校行事・部活動等の中・長期的視点で見直しを進めていく必要がある。
- ・ 人事異動により、これまでの「芸北学園構想」の理念の継承が薄れてきている部分もあることから、一貫校長会議、中高代表者会議等の定例化だけでなく、教科、分掌、部活動などで日常的な連携を行う。
- ・ 芸北地域の保小中高によって培われた「芸北学園構想」をベースとして、中央大学大学院ビジネススクール、県立広島大学、修道大学、比治山大学短期大学部等との高大及び地域との連携を充実させるための「結節点」としての役割を浸透させていくことが課題である。

(6) 業務改善について

- ・ まずは教職員の意識改革である。
- ・ 全教職員が常に同部屋であるため学年、分掌、生徒情報等を積極的に共有し、明るく発展的な職員室とする。一人が二役、三役することで業務改善につながる。

#### 4 目標の設定

学校経営目標							
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等	
		平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度		
<b>1 『知・徳・体』 バランスのとれた生徒を育てる</b>							
■授業を大切にし、授業に真剣に取り組む生徒を育てる。	授業満足度 (%)	93	90	91	92	教務	
■自らを律し、基礎的生活習慣の身に付けさせる。	頭髮・服装指導や特別な指導の対象者の件数	10	0	0	0	生徒指導	
■部活動の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとらせる。	部活動の加入率 (%)	100	100	100	100	生徒指導 生徒会	
■高等学校間の連携推進事業の取組を通して、異文化を持つ学校と協働することで、自らの学校に誇りを持たせる。	取組後のアンケート (%)	92.5	90	90	95	生徒指導 生徒会	
■業務改善を意識した働き方を推進することで生徒と向き合う時間を確保することができる。	教職員アンケート (%)	90	90	91	92	教務	
<b>2 地域を愛し、地域から愛される生徒を育てる</b>							
■生徒指導部を中心として全教職員が温度差なく同じ方針で指導できる体制を確立する。	生徒アンケート (%)	83.5	100	100	100	生徒指導	
■学校生活に喜びを感じる生徒を増やし、学校不適応を減少させることができる。	生徒の平均欠席数 (日)	2.8	3以下	2以下	2以下	保健	
■保小中高の異年齢集団での教育を充実させ、自己存在感を醸成し、キャリア教育の推進を図ることができる。	連携した行事・会議の回数 (回)	27	27	27	27	教務	
■連携型中高一貫校として、芸北中学校との行事・部活動を充実させることができる。	連携した行事・部活動の回数 (回)	96	90以上	90以上	90以上	教務	
<b>3 真の進路希望の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる学校</b>							
■全教職員がキャリア教育の概念を共有し、生徒の真の進路希望の実現に向けて、生徒・保護者と協働することができる。	進路検討会、生徒との面談、三者懇談 (回)	20	15	15	15	進路指導	
■地域・社会における自らの役割について考え、その内容を論理的に議論するためのコミュニケーション能力を高めることができる。	学習座談会 (回)	10	12	12	12	進路指導	
■生徒が、学力の向上について自ら手応えを感じながら、確かな学力向上を図ることができる。	1・2年生1月模試の偏差値(国・数・英)45以上の生徒割合 (%)	10	15	18	20	進路指導	
■生徒の真の進路希望を実現することができる。	進路希望(第1希望・第2希望)達成率 (%)	97	95	95	95	進路指導	

## 5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
<b>1 『知・徳・体』 バランスのとれた生徒を育成する</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業を大切にし、授業に真剣に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業アンケート実施（7, 12, 3月）</li> <li>■ 公開授業週間を設定し、教員間で授業参観を行い、研修会を行う。（6月）</li> <li>■ 授業態度及び提出物等課題のある生徒に対しては、教務部と生徒指導部が連携して指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための、カリキュラムマネジメントを教科横断的な視点で、組織的に配列していく。</li> </ul>	教務
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自らを律し、基本的生活習慣の身に付いた生徒を育てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 制服の正しい着こなしを教職員全員で推進する。</li> <li>■ 挨拶が礼を含めて自然に行われる雰囲気、全学校活動において推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「長幼の序」を重んじる生徒を育成するため教職員が率先垂範する学校文化を構築する。</li> <li>■ 学期始めにロールプレイ等を行うことで、授業規律や生徒・教職員間のマナー等の徹底を図る。</li> </ul>	生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部活動の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部活動への全員参加を原則とし、その活動の中で集団への帰属意識や責任感等を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部活動への全員参加を堅持しながら、生徒が主体的に活動できる部活動となるよう活性化を図る。</li> </ul>	生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高等学校間の連携推進事業の取組を通して、異文化を持つ学校と協働することで、自らの学校に誇りを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業（教務）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加計高校の音楽科・美術科の教師が芸北分校/加計高校/千代田高校の兼務を行う。</li> </ul> </li> <li>■ 合同行事（生徒会）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月：合同サマーセミナーin 芸北</li> <li>・ 生徒会交流会</li> </ul> </li> <li>■ 部活動（生徒会）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携可能な部活動において、可能な限り、連携を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 少人数のデメリットである切磋琢磨ができる教育環境を整備するとともに主体的に対話的な授業づくりを推進する。</li> <li>■ 高等学校間の連携推進事業が形式的なものにならないように、組織の再編成等のシステムづくりを推進する。</li> </ul>	生徒指導 生徒会 教務
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務改善を意識した働き方を推進することで生徒と向き合う時間を確保することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各主任を中心に前例を踏襲した計画の立案を廃止する。</li> <li>■ 全教職員が常に同部屋であるため学年、分掌、生徒情報等を積極的に情報共有し、明るく発展的な職員室とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 職員会議等を計画的、合理的に行うことによって業務改善、生徒と向き合う時間の確保をする。</li> </ul>	教務
<b>2 地域を愛し、地域から愛される生徒を育成する</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒指導部を中心として全教職員が温度差なく同じ方針で指導する体制を確立できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ロールプレイを通して、授業規律や生徒・教職員間の挨拶の徹底を図り、生徒指導主事研修の内容を職員朝礼や研修会等でQ&amp;A形式等の方法で徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全教職員が一枚岩であるという雰囲気や熟成させ、全員で生徒を指導する体制を確立する。</li> </ul>	生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校生活に喜びを感じる生徒を増やし、学校不適應を減少させることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気になる生徒や欠席の続く生徒について、職員間の連携を密にし、生徒の心身両面にわたるサポートを充実させる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者間の情報交換会（随時）</li> <li>・ 養護教諭の個別相談（随時）</li> <li>・ スクールカウンセラーとの連携（随時）</li> </ul> </li> <li>■ 健康な学校生活を送るための保健指導の実施（学校保健計画により実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒が、希望と意欲を持ち、安心安全な学校生活を送ることができるよう、組織的に取り組める体制を整備し、個に応じたサポートを充実させる。</li> </ul>	保健

<p>■ 保小中高の異年齢集団での教育を充実させ、自己存在感を醸成し、キャリア教育の推進を図ることができる。</p>	<p>■ りんごの作業体験等を通して、地元中学校と異年齢教育を行う。</p> <p>6月 中高合同りんごの袋かけ 9月 中高合同りんごの収穫</p> <p>■ 芸北中との連携会議を定例開催する。</p> <p>4月 中高合同代表者会議 中高職員合同会議 5月 中高合同代表者会議 6月 中高合同代表者会議 7月 中高合同代表者会議 8月 中高合同代表者会議 9月 中高合同代表者会議 中高職員合同会議 10月 中高合同代表者会議 中学校公開研究会 11月 中高合同代表者会議 12月 中高合同代表者会議 1月 中高合同代表者会議 中高職員合同会議 2月 中高合同代表者会議 3月 中高合同代表者会議</p>	<p>■ 「地域の子どもは地域で育てる」といった芸北学園構想を軸に、13年間を見通したキャリア教育が可能となるように、校種の壁を乗り越えて、密接な連携を図る。</p> <p>■ 定例化した中高連携の会議のなかで、特に教科間連携を充実させる。</p> <p>■ 異年齢教育ができる内容の充実を教科横断的な視点で計画する。</p> <p>■ 各会議において、生徒に関する情報交換を行うなど連携を充実させる。</p>	<p>教務</p>
	<p>■ 芸北小学校・芸北中学校との一貫校長会を定例的に行う。</p> <p>4月 一貫校長会 5月 一貫校長会、芸北ブロック研究大会 6月 一貫校長会 7月 一貫校長会 8月 一貫校長会 9月 一貫校長会 10月 一貫校長会、中学校公開研究会 11月 一貫校長会 12月 一貫校長会 1月 一貫校長会 2月 一貫校長会 3月 一貫校長会</p>		<p>分校長</p>
<p>■ 連携型中高一貫校として、北広島町立芸北中学校との行事・部活動を充実させることができる。</p>	<p>■ 中学校との合同行事を充実させる。</p> <p>5月 中高合同新入生歓迎行事 5月 中高合同体育祭 11月 小中高合同ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の交流は通年で行う。特に、スキー部において、芸北中学校の冬期のみものスキー部と芸北分校スキー部の合同練習を年間通して実施する。</li> <li>・ 体力トレーニングの実施</li> <li>・ 雪上レーニングの実施</li> <li>・ クロスカントリー種目のローラースキートレーニングの実施</li> <li>・ 冬季休業中の合同雪上合宿の実施</li> </ul> <p>■ 中3から高1へのよりスムーズな移行のために、高校0学期の取組を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中3生の希望者に対して、9月下旬より週2回の部活動の参加を認める。</li> </ul>	<p>■ 連携型中高一貫教育がスムーズに行われることが生徒の確保に繋がるとともに地域の期待であることを自覚し継続して取り組む。</p> <p>■ 芸北地域で長年行われてきた保小中高 13年間の一貫教育の中核としての役割を自覚しリーダーシップを発揮する。</p>	<p>生徒指導 生徒会 進路指導 保健</p>

### 3 真の進路希望の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育成する

<p>■ 全教職員がキャリア教育の概念を共有し、生徒の真の進路希望の実現に向けて、生徒・保護者と協働することができる。</p>	<p>■ HR 担任・進路指導部・部活動顧問・分校長が連携して、生徒の学校生活への姿勢や進路意識を高めるために、面談を実施する。</p> <p><u>1 学期</u> HR 担任・進路指導部・部活動顧問・分校長による面談 <u>終業式前後・夏休み</u> HR 担任・保護者・生徒による三者懇談</p> <p><u>2 学期</u> HR 担任・進路指導部・分校長による面談 <u>終業式前後・冬休み</u> HR 担任・保護者・生徒による三者懇談（3 年生は、進路未決定者のみ）</p> <p><u>3 学期</u> 進路指導部・分校長による面接</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1・2 年生：9 月より、週 1 回×15 回の補習授業を実施する。</li> <li>・ 3 年生：7 月より、週 1 回×20 回の補習授業を実施する。</li> </ul>	<p>■ 単なる面談に留まることなく、担任、進路、分校長面談を系統的に実施することで、学校生活の充実及び希望進路の実現につなげていく。</p>	<p>進路指導</p>
<p>■ 地域・社会における自らの役割について考え、その内容を論理的に議論するためのコミュニケーション能力を高めることができる。</p>	<p>■ 様々な領域で論理的思考力やコミュニケーション能力を発揮する場面を設定し、それらの能力の向上を図る。</p> <p>■ 授業において生徒の発言や発表の場を毎時間設定する。</p> <p>■ 定期考査において、活用問題を必ず設定する。</p> <p>■ 生徒朝礼、中高連携行事、各種儀式等でなるべく多くの生徒の発言の場を設定する。</p> <p>■ 「学習座談会」等、学習と社会・地域との関係等について、生徒同士が議論する場を設定する。</p>	<p>■ 「コミュニケーション能力を発揮する」ことが、日常的に当たり前のことになるよう、様々な取組を計画的に推進する。また「学習座談会」の内容の充実を推進していく。</p>	<p>進路指導</p>

<p>■ 生徒が、学力の向上について自ら手応えを感じながら、確かな学力向上を図ることができる。</p>	<p>■ 各教科担任・HR担任・部活動顧問・進路指導部が連携して、家庭学習時間を伸長するために、次の取組みを行う。</p> <p><u>各教科担任</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2学年の生徒に、生徒の家庭学習の定着のため課題を工夫する。</li> </ul> <p><u>進路指導部</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査2週間前から家庭学習時間調査を行い、分析を行う。</li> </ul> <p><u>各HR担任・部活動顧問</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習時間調査の分析を基に、全体指導及び個別指導を行い、家庭学習時間を伸長すように努める。</li> </ul> <p>■ 総合学力模試を進路指導部主催で定期開催し、模擬試験ごとの分析、及び、模試の結果に対する生徒表彰を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月 スタディーサポート</li> <li>6月 進研マーク模試（3年） 進研記述模試（全学年）</li> <li>8月 全統マーク模試（3年）</li> <li>9月 ベネッセ・駿台マーク模試（3年）</li> <li>11月 ベネッセ・駿台記述模試（3年）</li> <li>11月 全統プレテスト（3年）</li> <li>1月 進研記述模試（1・2年）</li> <li>2月 進研センター早期対策模試（2年）</li> </ul>	<p>■ 「やらされ感」や「安心感」を生み出す形式的な補習ではなく、目的意識を明確にさせ、指導のポイントを的確に絞り、自学自習の充実につながる効果的な補習を展開する。また、全教職員で組織的な取組となるように、計画的に実施する。</p> <p>■ 総合学力模試の結果分析を通じて、各教科担任が授業力向上のための研鑽を積み、その結果、生徒の学力を向上させ、国公立大学合格者を毎年5名以上出すことができる体制を構築する。</p>	<p>進路指導</p>
---	---	---	-------------

<p>■ 生徒の真の進路希望を実現することができる。</p>	<p>■ 生徒が地域社会を見つめながら、自らの真の進路希望を見いだすことを支援するため、「進路講演会」「学部学科ガイダンス」「北広島町企業訪問」「出身小学校へのインターンシップ」等の取組を行う。</p> <p>■ 生徒の進路希望を達成するために、各教科担任・HR担任・進路指導部が連携して、補習を中心とした、次のような取組を行う。</p> <p><u>1・2年生</u> 夏休みに国語・数学・英語・地歴公民・理科等の教科学習中心の集中補習を行う。</p> <p><u>3年生</u> 早期に生徒の希望進路を確定し、それに応じた年間補習計画を作成する。 ※補習の流れは次のとおり。</p> <p><u>進学希望者（教科受験）</u> 1学期：国語・数学・英語・理科・地歴・公民による、「学習ガイダンス」の実施 夏休み：国語・数学・英語・理科・地歴・公民を中心とした補習 2学期：理科・地歴・公民を中心とした補習 3学期：国語・数学・英語・理科・地歴・公民を中心とした補習</p> <p><u>進学希望者・就職希望者（面接・小論文受験）</u> 1学期：毎週〇〇曜日〇〇時と決めて、定期的に地道な学習を実践する。 夏休み：志望理由書作成・小論文指導を中心とした補習を実践する。 2学期：「学習座談会」を取り入れた、小論文指導・面接指導を中心とした補習を実施する。</p> <p><u>就職希望者（一般常識等）</u> 年間通して随時指導</p> <p>■ 進路検討会議を定期的開催し、生徒の進路希望の確認と、その達成に向けた取組の進捗状況を確認する。</p> <p>■ 「芸北学園構想」に基づき、「高校ゼロ学期」や「サマーセミナー」等、中高連携に関わる取組を充実させる。</p> <p>■ 1年生全員が3日間、出身小学校等へのインターンシップに参加する。</p> <p>1学期：小学校への依頼、生徒への事前指導を実践する。 夏休み：小学校との連携 2学期：インターンシップ本番、成果発表</p>	<p>■ 左記の本年度の行動計画にある様々な取組を、一つの大きな流れとしてとらえながら、充実・発展させてゆく。</p>	<p>進路指導</p>
--------------------------------	---	---	-------------